

I 実践

1 研究主題

生徒の人権感覚や人権意識を育成するための教育活動の充実と人権教育の推進計画の工夫・改善

(1) 主題設定の理由

人権の基本にあるのは、一人一人の人間の尊厳である。そのため、「茨城県人権施策推進基本計画」に基づき、「教育活動全体を通して人権尊重の精神を養うとともに、差別や偏見をもたない児童生徒の育成」を目指している。そのための課題の一つが、「人権問題の理解については知識理解を中心とした学習であったことから児童生徒に人権感覚が十分身についていないこと」である。そこで、教科や領域での教育活動全体で体験的な活動や話し合い活動を通して理解を深めることができれば、一人一人の人権に対する意識を高めることができると考えた。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の学校生活全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

2 実践内容

(1) 学級活動における「人権問題」に関する授業（第1学年）『インターネットの正しいマナー』

ア 「人権に配慮したインターネット・携帯電話の使い方」を読んで話し合う。

イ 話し合いを通して、「人権侵害」について考えたことをまとめる。

(2) 道徳の時間における「人権」に関する授業（第2学年）

ア 資料「滋賀県大津の中2年男子自殺についての新聞特集」を読んで話し合う。

イ 話し合いを通して、「生命の尊さ」について考えたことをまとめる。

【友達の意見】

【大津市長】

「今の世界が全てではない 相談して」

【いじめられてる君に】

「相談はカッコ悪くない」

「話せば見方増えますよ」

「主役は自分 夢を持って」

【いじめている君に】

「軽々しい同調やめよう」

【いじめを見ている君へ】

「声をあげて自分のために」

- ・いじめのない学校にして行こう！
- ・少しでも嫌なことがあったら自分だけで抱え込まない方が良く。信頼する大人に相談！
- ・いじめの子たちって1対1だと何もしてこないのに、複数だと態度が変わる。
- ・助け合うことが大事。相談する勇気も大事
- ・命はひとつ。つらくてもがんばろう！
- ・市長さんの「ちがいを認め会える社会になるといい。」という考えに賛成です。

(3) 社会科における「人権」に関する授業

ア 「裁判の種類と人権」についての授業

イ 話し合いを通して、「死刑制度」について考えたことをまとめる。

3年2組 ()

《 死刑制度について 》
私は、死刑制度について反対です。なぜなら、いくら人を殺したりという事実があっても、犯人にも命があり、その命は重いのだと思います。生きて、自分が犯した罪の重さと命の重さを知ってもらうために、死刑制度はやめた方がいいと思います。
犯人の中には、悔んでいてる人もいます。それに裁判員制度で死刑を言うのもとても辛いと思うからです。

3年3組 ()

《 死刑制度について 》
私は、死刑制度について反対です。理由は、死刑制度があっても殺人事件の発生率に変わりがないからです。もし、殺人事件の発生率が減少しているなら死刑制度を続けた方がいいと思いますが、発生率に変化がないので、続けても意味がないと思います。それと、人が人を殺すことは許されることではないのに「死刑制度」では人が人を殺しています。それらのことから、私は死刑制度について反対です。

(4) 学校行事での取り組み

ア 宿泊学習（栃木県那須町モンゴリアビレッジ2泊）

人と人、人と環境との関わり合いを重視した体験学習を通して、自他の良さを発見しながら、差別や偏見のない心、環境を大切に作る心をもつゆたかな人間性を培い、自分の生き方を探る。



【馬頭琴鑑賞】



【モンゴル生活体験】



【ゲルの組み立て】



【茶臼岳トレッキング】



【酪農体験】



【酪農体験】

イ 全校活動

集団の一員として役割を果たしたり、自覚をもって行動したりすることができる。



【リサイクル活動】



【登校時のクリーン作戦】



【落ち葉掃きボランティア】

3 成果

- ・道徳や学級活動の時間では、学年や学級の実態に応じて、タイムリーな新聞記事やニュース等から教材を見つけ、工夫した授業展開をする取り組みも見られた。生命の大切さや個性の尊重などについて考えたり話し合ったりすることを通して、人権の基盤である自他の生命を大切にするという認識を再確認できるようになってきた。
- ・社会科の学習では、歴史や公民の授業の中で、人種や民族、性別による差別や人権について考える時間を設けることで、生徒一人一人に人権に対して『気づき』から『学び』へ、そして『行動』への意識づけができてきた。
- ・各学年で行われている宿泊学習などの体験活動や探求活動の中で、人間的なふれあいを通して、お互いの個性を認め、協力し、友情を深めようとする態度が身についてきた。
- ・リサイクル活動やクリーン作戦では、保護者や地域の方々から温かい励ましの言葉をかけてもらい、活動後の達成感や充実感をえた生徒が多かった。

II 今後の課題

各教科や道徳、総合的な学習の時間・学校行事など教育活動全体の中で、人権に対する取り組みをさらに充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。また、校内研修の充実を図り、教職員の人権に対する知識や理解を高めていくことも大切である。さらに、計画中の人権コーナーを設置し、意図的・計画的な実践が図れるようにしていきたい。